



市長モリテツの
ほっとトーク

April 2022

「ひと」「まち」「さと」の魅力を活かすまちづくり

— 新たなまちの変革を目指して —

三田市長 森 哲男

昭和33年に人口約3万2千人の市として誕生した三田市は、穏やかな農村集落の小都市として発展してきましたが、昭和50年代の大規模なニュータウン開発を契機に大阪・神戸のベッドタウンとして急速に成長しました。平成12年には人口約11万人に達しましたが、人口増加は次第に緩やかになり、平成25年以降は減少に転じています。

穏やかな「農村集落の小都市」は、「ニュータウン」と「駅前の既成市街地」と「農村地域」が隣接する多様なまちへと大きく変貌しました。近年は都市回帰の傾向もあり、大阪・神戸をはじめとした大都市への転出が増加しており、特に20歳代を中心とした若年層の転出傾向が強まっています。「急激な人口減少」の難題に直面する本市ですが、昭和50～60年代にニュータウンに転入してきた世代が、一斉に高齢化を迎えるという「急激な高齢化」の難題も抱えています。一方、まちが発展する中で、「ひと」「まち」「さと」という本市の魅力が醸成されてきました。「ひと」の魅力には学生を中心とした若者の力があり

ます。ニュータウン開発に伴い、関西学院大学神戸三田キャンパス、兵庫県立人と自然の博物館などの高等教育機関の誘致・整備に努めた結果、約7千人の学生および教職員が本市に集まりました。「まち」とは駅前再開発やニュータウン開発で生まれた充実した住宅都市機能です。そして、「さと」とは豊かな里山に囲まれた農村の風景や生活の匂いです。「ひと」「まち」「さと」が結びついているのが本市の大きな魅力です。

さて、本市は「急激な人口減少と高齢化」という二重の難題を乗り越えるため、「人口減少にも負けないまちの変革」に取り組むこととしました。「まちの変革」の目指すところは、前述した3つの魅力を活かした未来都市の創造です。今春、今後10年間のまちづくりの道標となる第5次三田市総合計画を策定し、まちづくりの基本目標を「ひと×まち×さと」が織りなす未来都市三田」としました。

未来都市の創造を目指して「まちの変革」を、市民の皆さんと共に着実に進めていきます。

Mayor's Photo Diary



2月15日 「三田市認知症支え合いのまちづくり懇話会」が共生社会の実現に向け、提言書を提出



3月6日 「第30回 三田耳の日のつどい」が総合福祉保健センターで開催され、手話であいさつ



3月13日 女子野球チーム「兵庫ブルーサンダーズ」の2022シーズン壮行会で選手を激励